

2025年
1月

YAMATO GAWA 図書館だより

～新刊の紹介～

いよいよ3学期です。年初に良い本に出会えると、良い1年になりそうですね。
99冊の新しい本が入りました。ぜひ、あなたの今年一番の出会いを見つけてください。

今回の
イチオシ



アフリカで、バッグの会社はじめました ：寄り道多め仲本千津の進んできた道

江口絵理 著／さ・え・ら書房

迷い、遠回りしながら、自分の信じる道を歩んできた仲本千津さんの姿を描く“進路決定”ドキュメンタリー。銀行員をやめ「人の命を救う仕事がしたい」と思った千津さんは、アフリカのシングルマザーたちの力になれるビジネス、アフリカンプリントを使ったバッグをつくる会社を立ち上げました。その信念と実行力、見習いたい。

サクラ咲く

辻村深月 著/光文社

本好きで気弱な中学一年生が、図書館の本の中に見つけた一枚の便せんから、顔の见えない相手との交流が始まります。この「サクラ咲く」のほか、2編の話が入っていて、どれも辻村深月さんならではのあたたかさで、ほろりとするお話ばかり。いろんな経験を経て友情を育む、青春、真ただ中の皆さんに贈ります。



赤と青のガウン：オックスフォード留学記

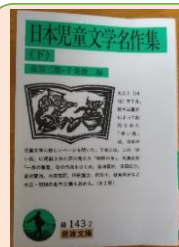
彬子女王 著/PHP研究所

皇族である彬子女王のオックスフォード大学留学記。努力を重ねて博士号を授与されるまでのお話ですが、決して固い内容ではなく、現地で出会った人々との交流、そして遭遇したハプニングは冒険談のようです。また、一般人と皇族の方々との生活の違いが垣間見れるのも興味深いです。

ヴァンダーカンマー：ここは魅惑の博物館

桧崎茜 著/理論社

全然関心なんてなかったのに、中学2年生5人が学校の職場体験で行ったのは博物館。5人それぞれの体験がとてもおもしろくて、どんどん博物館の楽しさが伝わってきます。また、そんなに親しくなかった五人が体験を通じて少しずつ近づいてくる…。こんな職場体験なら、何日でもしたくなること請け合い！



日本児童文学名作集 下

桑原三郎 千葉俊二 編/岩波書店

日本の児童文学の夜明けに創刊された「赤い鳥」に掲載された芥川龍之介「蜘蛛の糸」、有島武郎「一房の葡萄」、宮沢賢治「オツベルと象」など全21編の作品集。

ほかにも島崎藤村、浜田広介、椋鳩十、新見南吉などの名作に、文庫本で出会うことができます。フリガナもついています。

ほかに「名探偵コナン」「黒子のバスケ」「銭天堂」「鬼滅の刃」
「ハイキュー!!」「青鬼」「僕のヒーローアカデミア」などの
人気シリーズもたくさん入荷しています。

直木賞「ツミデミック」、
東野圭吾「クスノキの番人」の続編「クスノキの女神」といった話題作も！